平成13年(2001年)

地域医療連携室を開設

～病院間の連携をより密に～

いちおし話題

かかりつけ医との協力密に

地域医療連携室を新設

紹介患者の予約迅速化

福井赤十字病院

地域のかかりつけ病院と中核病院との連携が、県内でも着々と進んでいる。福井市では、県済生会病院に続き、福井赤十字病院が今月一日に「地域医療連携室」（室長・野口正人副院長）を新設した。専任スタッフを配置、開業医からの紹介患者のデータを一括管理、担当医師への検査・診療予約を迅速に行うシステムを スタートさせた。県立病院や福井総合病院も開業医に施設を開放し共同で診療にあたる「開放型病床」制度を導入するなど、病院間の連携が今後も急速に広がりそうだ。

かかりつけ医と中核病院の連携は、救急を要する患者や重症者に、詳しい検査や入院治療を行う大型病院と、地域に密着し、比較的軽い症状の患者を診察するかかりつけ病院との役割分担を明確化し、専門的な治療をより多くの人に提供するのが狙い。県内では、一九九三年に県済生会病院が地域医療連携室を設置した。

福井赤十字病院は、既に地域医療連携室を運営している岡山赤十字病院や京都第一赤十字病院を視察、参考に準備してきた。

同病院に患者を紹介したい医師はまず、どのような症状で、何科の医師に診察してほしいかなどを申込用紙に記入、地域医療連携室にファクスで連絡。スタッフが、担当医師の外来診察の空き時間を調整し予約を入れ、十分前後でかかりつけ病院に返信する。患者はその場で「診療予約票」をもらい、指定された時間に同赤十字病院で診察を受ける。

これまで、開業医からの紹介患者は、紹介状を持参し中央受付で申し込み、カルテを作成してもらっていた。担当の外来受付で予約しなくてはならず、手続きが煩雑だった。指定の時間に受診できることで、大病院にありがちな長い待ち時間も軽減される。

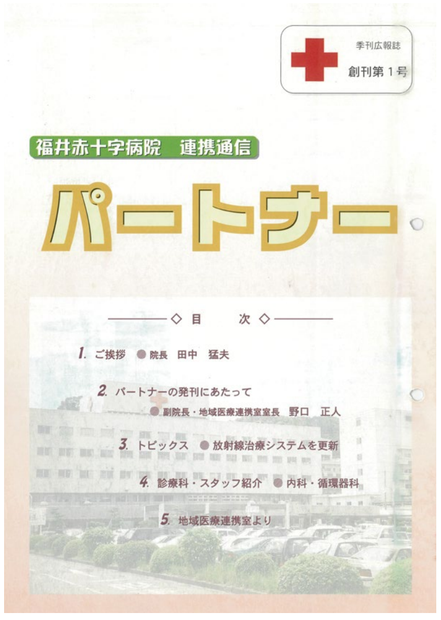
同病院を訪れる初診患者数のうち、他病院からの紹介者が占める割合は一五―一七％とあまり高くない。地域医療連携室の新設により、紹介率アップにつなげていきたい考え。既に嶺北約五百の医療機関に案内状を送り、積極的な利用を呼び掛けている。

県済生会病院では、同室の新設により、それまで九―一〇％だった他病院からの紹介率が、設置後は三〇―三二％に上がるなど効果を上げている。また、県立病院は九八年七月、福井総合病院は九九年四月に、検査機器などの医療施設を開放、開業医と共同で診療にあたる「開放型病床」制度を導入、かかりつけ医との連携に向けた取り組みが広がっている。

福井赤十字病院の野口室長は「システムの運営には地域の診療所の協力が不可欠だが、将来的には、同病院で治療を受け、ある程度回復した患者を地域のかかりつけ病院に戻す『逆紹介』も推進したい」と話している。

かかりつけ医からの紹介患者の対応に追われる「地域医療連携室」のスタッフ＝福井赤十字病院

新設された地域医療連携室（現：地域医療支援センター）の利用を嶺北の医療機関に呼びかけ、紹介率アップにつなげていった



▲地域医療連携通信パートナー

▲キャッチフレーズとロゴマーク

地域の医療機関との連携を強化するべく、平成13年（2001）4月に地域医療連携室を開設。平成16年（2004）3月に、地域医療支援センターに組織変更しました。

「結ぶきずな　地域とともに」をキャッチフレーズに掲げ、かかりつけ医からの紹介患者さんの診療・検査の予約対応や、症状が落ち着いた患者さんをかかりつけ医に紹介する際の調整などを担当。

また、同室開設と同時に、各診療科の取り組みを紹介する『地域医療連携通信 パートナー』の発行を開始しました。

100th ANNIVERSARY 1925 2025
福井赤十字病院

平成13年の出来事

- ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが開園
- アメリカ同時多発テロ事件発生
- iPodが発売される
- 映画「千と千尋の神隠し」が劇場公開